

徒歩にて数分、温泉、湯瀬ホテルに入る。西側に深緑の高山を控へ川岸に露出せる巨岩上には、優しい姫小松が一面に叢生し、米代川の溪流に映じ、その風趣は眞に捨て難き大仙境である。

内郷町報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、地方充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協賛を圖り、協和進歩努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷町報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

先づ耳と鼻とは大きく！

目と口とは小さく！

町制施行奉告祭挨拶

内郷町長 沼田濱之助

これは八月一日八坂神社前町制施行奉告祭に於ける沼田町長挨拶の概要である。

一文責在記書

町制實施に當りまして、一言御挨拶を申し上げたいと



長町田沼

思ひます。當村を町とする
ことについて、先づ協議會
を開きましたところ、翁然
之に賛同を見、愈々七月十
六日に開會した、村會の議
決を経て、縣に稟申した様
な次第でありましたが、約

約三時間半の汽車の旅で、矢吹驛に着いた。驛より西方徒歩二十分にして、廣漠九十町歩の耕地を有する農場に到着した。先づ心身給然、雲霧を突破して、天日を仰ぐが如き感にうたれた。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に傳ふる種智を養ふものなり

たいと思ひます。又一面當村の繁榮に密接不離の關係を有する、石炭礦業に負ふ所亦多大であつて、ここに將來層層輪車、町運の隆昌と向上、刻下重要産業たる各會社の殷賑と發展とを念願して已まない所でありま

會つて彼の有名な、鎌倉時代の佛師運慶の佛像を刻ざむ心構ひなるもの聞きましたが、佛像を刻ざむには先づ其耳と鼻とは、之を大きくし、其目と口とは、それとは反對に小さくしたといふことであります。そのすることによつて、其後の工程に於て、其耳鼻口が

夫々整した藝術品に出来上るといふわけであつて、この先づ耳鼻は大きく、目は小さくすること、これに名人佛師の秘法であつたことであらう。

此佛像を刻ざむ心構ひはこれを萬事に適用すべきであると思はれます。要は何が目で、何が耳鼻であるかを、鑑別するのが肝要のことであると思はれます。今後町制施行の上上に就いても、緩急序を失せず、大軌を逸せず、耳鼻と目口との甄別を誤らず、町是を確立して、立派に其治蹟をあげる様にいたしたいと思ひます。

それにつけても、各位の御支援と御指導とを待つとも、愈々大なるものありと存じます。將來何分共宜敷御願申上げます。

内郷村町制施行 奉告祭 諄辭

神官 吉田定正

此の八坂の御社に 招奉り鎮奉る掛巻も長き 内郷村の里々に鎮り坐す 大神等の御前に 村社住吉常盤の兩社に仕奉る 神職吉田定正 恐み恐みも白さく 此の内郷村は、濱街道に添ひて遠き古へより開けて 秋山館 北郷館 高坂館など 築き奉りて 威勢を張り 部落を白水村 宮村 高坂村 御

故郷の夕 民 惠
庭もせにすたく虫の音水の音
月もまやかにすむたりたり

本紙定価 一冊五錢 半年三圓 一年六圓
發行所 内郷町報
〒一三九 内郷町 民 惠
電話 二二九

代の二十二年といふに、町制といふ御指定より、後は、古へ内郷の庄と稱へし縁りを以て、内郷村役場と言ふ村の事執る處を設け而して元の村を大字と呼び、茲に上下の二區に分ち、區を九ツとなし今に及ぶるが、其の頃は立派なる窓の煙も稀にして、人の往來も甚だ絶つ絶つばかりなり。然らば、此れより後、村長村の刀關等、村人と共に心を合せて、村の政事うまに治め奉るまに、諸の産業漸くに榮え、愈鐵道を通じて、緩急を設けてより、殊に探炭の事業盛りに開け、四方の國人も自ら移り、來住む者少なからず、今は家數も六千五百余り、人の數は三万五千余二百を越え、平市より湯本町に至る、此の里の國道は此の程廣く高く堅く美はしく改め造られ、甚だ繁く行交自動車も駛り滑らかに、往來の人も便りよく斯く、此度村を町と改め、改め公に聞え上つる願ひ許されて、早くも八月一日今日の生日の足日に内郷の町と成る故に、里人悉に嬉みて、事の始に此の里々に鎮り坐す我が大神等の大前に、事の由を告げ奉るまに、大神等を暫し此の八坂の御社に招奉りて、御饗酒御饗海川野山の種々の御饗物を献りて、御祭仕奉り、町長を始め、諸玉串の取り取りに捧げ奉り奉らるる、平づく安らげ、諸の閑食して、此の町内の御氏諸に、福日の福事なく、大業の道愈々勵み進りて、惟神の大業うまに踏み行はしめ給ひ、人々諸明き眞の心に睡ひ和みて、各々も幸く眞幸く、立榮はしめ給へ、畏み畏みも白す

台境村 御麻村 小島村 上高坂村と稱へ、後に上高坂村を二つに分ち、内郷村と稱へし、田畑を拓きて専ら農業を営み給ひしが、安政の頃大浦村の片寄平藏と呼ぶ人、白水村の彌助澤に始めて石炭を見出し給ひてより、石炭を掘出す業も開き始め、かくて世々の遷り變り在りて、明治の大御

言別て白さく、今回の事に與り格み給へ、町長力願また諸人に至るまで、家にも身に福事なく、明き清き直き心に、町の産業愈々まらに、功勤しく立榮、仕奉良志米給へ、畏み畏みも祈み奉ら

く白す

く白す

東北最大の村から

東北最大の町へ

大内民恵

町村制實施以來五十四年間に於て、今日の東北最大村を顯現した我内郷村も、八月一日より東北最大の町として、輝やかしい發足をすることとなり、此日午前九時より、郷社八坂神社の廣前に於て、關係者一同參列の下に、莊嚴なる報告祭が行はれた。

其今日あらしめた歴史、經過及理想等に就いては、本紙第一面に掲載した、吉田神官の諄辭、沼田町長の挨拶に、其梗概を盡くされ

てあるので、これが繰述を略するが、たゞ此上は、全町民各自が、先づ深く自己を檢討し、其本分と職域とをよく認識して、邁往精進すべきである。こゝに千三百余年、聖徳太子によつて選定せられた、萬古不磨の大憲章第一條の全文を奉唱して、三萬六千町民が、一團一心、此聖旨を遵奉して、町勢の隆々發展に貢献することゝいたしたいと、衷心から念願する次第である。

内郷町各公私團體職員

町制の實施を遂行し、町を確立して、これが完成を期すべき中心責任者は、いふ迄もなく町長以下、全町各公私團體の職員である。こゝに其代表者の氏名を掲載して、其協力精進を希望することとする。

- 町長 沼田濱之助
 助役 金澤 爲喜
 収入役 齋藤 彌一
 書記 菅田 仙治
 吉田 仙治
 菅波 郡水
 小松柳太郎

教育制度改革概論

(四六版二一頁定価五十錢 郵税六錢)

矢野恒太序 大内民恵著

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實際に、歴史を實際から新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士に賛同致意に迫らす。さ

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 寄せて曰く、多年の苦心を凝らす。御試練ニ基キ眞實學界ノ大精神ヲ拜味仕リ不忠感ニ打テ申候云々。

- 山崎 千朝 廣井 將之
 野木 久彌 戸田 政記
 長谷 長平 高橋 勇
 書記補四名。 雇四名。 給仕一名。 囑託一名。 農業技手一名。 使丁四名。

- 各部會長
 石川 直得 牛久信二郎
 小松 多嘉 直井 博
 庄司平三郎 加藤水誠一郎
 佐藤 作藏 宮下 秀貫
 松本 大 河越 七郎
 伊藤仙七郎 久野藤二郎
 仲繪 藤一 阿部 政藏
 柿沼新五郎 磯貝 信夫
 佐藤 市助 沼田 敬助
 廣木春之允 藪部 末造
 遠藤萬四郎 野木 力
 野田辰次郎 草野 庄太郎
 山下喜代治 後藤 庫次
 松本 信一 大和田 一

- 本紙贊助金寄附芳名
 金貳拾圓 福島小林ヒロ子
 金貳拾圓 湯村白石きよ子
 金貳拾圓 二本松七島長太郎
 金貳拾圓 藤田新五郎

級の位階勳功を忝うし、たゞ田村郡船引町長助川代議士の、正五位に其一位を譲るも「勳」は同等「功」は我にあつて、彼に無く、故に此點に於ても、全縣下の町長中最上位を占め、且つ三期に亘る村長勤績によつて、其力は練成され、其徳は玉成され、所謂縣下最上の町長といふも、敢て過言でないと思はれる。東北最大の町に、縣下最上の町長を仰ぐ。こゝに於て我等町民の責任は、重大なるを痛感せざるを得ない。それ努めよやである。

- 大字區長
 小松 多嘉 佐藤 作藏
 久野藤二郎 沼田 敬助
 廣木春之允 遠藤千代次
 野木 安吉 草野 庄太郎
 山下喜代治

- 警防團
 團長 佐藤 三平
 副團長 野木 力
 庶務部長 菅波 郡次
 顧問 沼田濱之助
 分團長八名。 副分團長八名。 班長十三名。 副班長十三名。

日本評論社 東京三丁目
 内郷町報社

軍人遺家族相談人 瓜生新六外二十二名。
 大政翼賛會 沼田濱之助 支部長

山崎 辰 大内 民恵
 安田宇太郎 佐藤久太郎
 金澤 慶一 廣木春之允
 松村 智清 田口 淳三

山下喜代治 書記戸田政記
 石城郡方面委員 大内 民恵
 聯合會 田口 淳三
 同副會長

警炭 點呼優良
 從業員 七月十八日金坂運動場に

松本大、鈴木嘉作、草野彦太郎の七君と、予とであつた。いよく七月十五日、生憎な校様に勢揃ひなして、汽車で平

一團一心、此聖旨を遵奉し、町勢の隆々發展に貢献することゝいたしたいと、衷心から念願する次第である。

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

矢野 恒太序 大内 民惠著

軍人遺家族相談人
瓜生新六外二十二名。

大政翼賛會

支部長 沼田濱之助
常務員 島田 兼吉
同 大越久五郎
同 鈴木 喜政
同 田邊 實
同 大越 一郎
同 草野 雅一
同 吉田 安晴
同 渡邊 忠義
同 藁谷 政二
同 大内 民惠

翼賛壯年團

團長 島田 兼吉
副團長 草野 泰一
同 田邊 實
同 渡邊 忠義

婦人會

支部長 沼田ひとし
副支部長 島田 トミ
同 日野 ハナ
顧問十三名。理事十一名
參與十五名。監事三名。方
部長十五名。

方面委員

若松 利重 赤土 興榮
江連 清明 山崎 金與

助役 金澤 爲喜
收入役 齋藤 彌一
書記 吉田 仙治 渡部 惣江
菅波 郡水 小松柳太郎

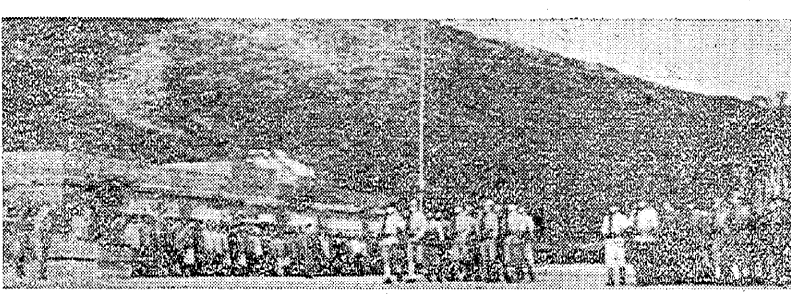
高坂同 堀 一郎
家政女學校長 佐川 文雄
私立磐城炭礦 鶴田 勝三
青年學校長 松本 信一
町會議員 永久保作治

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校事に違わらず。れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學の權威 前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年の舞臺下實地、御試練ニ基テ眞實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不忠感激ニ釘メ申候云々。

私立磐城炭礦青年學校

年來礦業青年夜學校とし、内町國民學校に附設さ



磐城炭礦青年學校全體照

山崎 辰一 大内 民惠
安田宇太郎 佐藤久太郎
金澤 慶一 廣木春之允
松村 智清 田口 淳三
野木 力 草野 雅一

山下喜代治 書記戸田政記
石城郡方面委員 大内 民惠
聯合會 會長 田口 淳三
同副會長 野木 久彌
同書記 野木 久彌

れてあつたのが、發展的解
消されて、四月一日より出

現したのが、私立磐城炭礦青年學校である。之亦大内郷町によさはしい存在であると共に、一大偉觀である校長は磐城炭礦業所長鶴田勝三氏で、教頭は田邊實氏で、専任五名、兼任七名の教職員が、鋭意教育に當面して居る。毎日午前は學科午後は教練並に體操競技を課し、協同精神を助長し、積極服従心を涵養し、規律訓練の徹底を期し、以て大國民たる資質向上に、精進努力しつゝあつて、其成果に就いては、一般の注目をひいて居る。尙第一學年全員を收容する寄宿舎は、目下盛んに工事中であつて、これが完成の曉には、錦上花を添うる一壯觀を呈することゝ思はれる。而して現在、第一學年一一八名、第二學年四五名、第三學年四六名、第四學年三一一名、研究科二七名、女子第一學年一九名、計二六六名の生徒

「生長の家」講演

一 七月十七日午後七時より二時間、級職員俱樂部に於て開催。講師は其産業報國部兼吉靜一先生。演題は銃後産業人の明るい生活を築く爲に。

一 八月十五日午後六時より二時間、内郷職員俱樂部に於て開催。講師は同星野眞之助先生。演題は銃後の務は感謝から。

聴衆多數。啓發せらるゝところ多大であつた。

雨の濱の一日 民惠

身邊に娯樂した、公私の用件が一段落ついた七月十四日、明日は一日晴雨に、はらす、濱へ行くて一日の自然の氣を發つて來ようやないか、といふ話題が、我部落内に起り、それはよからうと、これに賛同した面々は、尾形進、小西元二郎、佐藤豊次、長濱松次郎、

日本評論社

東京橋本三丁目

◎本紙贊助金寄贈芳名
金貳拾圓 島小林ヒロ子
金貳拾圓 湯村白石きよ子
金貳拾圓 二本松七島長太郎
金貳拾圓 藤第二部落會代表柿沼新五郎



行一の行演

海邊近く點々たる漁師の人影中に、特に先發して我一行の爲に、よき獲物をながさ、釣竿を垂れて居る我松本君の令弟、磯釣の名手正光君を發見、我等も竿を握りて、其許に馳せ参じ、糸を垂れたが、魚も素人を見てか更に反應なした何々。そうして居る中、一雨が降りだしたので、磯端の一寸した岩巖にかけこみ、焚火して暖をさうとしたが、いよいよ本降りとなつたので、其所でもさ磐炭に居つた鈴木源六君方に引き上げ、高久志賀氏一家の軒下、政光君の釣にか、つた數々の魚、貝焼特に鈴木家の味のよい深庵等々でお茶に、お酒に、舌鼓をうちながら靈飯をいただく。かくて歸途に就き、バスで小名濱に出て、最近メッキリ擴大した町の全貌を瞥見、記念撮影を大して歸宅したのは夕刻五時であつた。

(日記の一節)

